

2014年9月4日

第2回 イブニング・サロン 開催のお知らせ

特任助教 西上

GLAFSでは、教員・研究員・助教及び学生その他 IOG 関係者間の学術的交流を図るとともに、講義・コアセミナーでカバーできていないジェロントロジーの基礎知識を共有することを目的として、「イブニング・サロン」なる企画を行っております。

当企画では、GLAFSのライブラリにおいて、夕食をともにしつつ、あるいはお酒を片手に、毎回の報告者の話題提供をもとにして、ソフトなディスカッションを行います。報告の内容としては、助教や学生の日頃の研究内容や、基礎文献の要約、新聞・雑誌等に掲載された高齢社会問題に関する最新記事の紹介等を想定しています。また、外部の方にもレクチャーをお願いしたいと考えています。

第二回は、株式会社 LIXIL の笈田幹弘様にレクチャーをしていただきます。笈田様は、IOG の元特任研究員であられ、去る 8 月に開催されました GLAFS の合宿でもご報告をしてくださいました。今回は、「住み続けられる住まい、ってどんな住まいだろう？」をテーマとして、以下のような概要のレクチャーをしていただきます。

事前の参加申込み等は不要ですので、夕食がてら報告を聞き、楽しく議論したいと少しでも思われる方は、お誘い合わせの上、当日の 19 時にライブラリにいらしてください。多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

記

日時 9月25日(木) 19時から21時

場所 工学部8号館7階702(ライブラリ)

会費 1000円(アルコール含む軽食を若干用意します)

報告者 株式会社 LIXIL 笈田 幹弘 様

テーマ 「住み続けられる住まい、ってどんな住まいだろう？」

概要

「住み慣れた地域で自分らしく老いる、そして住み慣れた家で最期を迎える、そのような生き方、死に方を実現したい人達が今後増えていきそうです。では、実現するためには一体何が必要なのでしょう？昨年度、要介護度が中重度でありながら住み慣れた家で暮らし続けているご家庭を訪問し、どのように住み続けられているのか、について調査しました。その結果、様々な住まいの工夫、外部ケアサービスの利用、福祉用具の利用、家族のサポートなどが総合的に行われていることがわかりました。今回は、その事例を共有化しながら、住み続けられる住まいについて様々な専門分野の方々と意見交換できれば、と考えております。」

なお、次回以降の報告を引き受けてくださる学生や、当企画の運営等に協力してくださる学生の方を募集しています。少しでもご興味のある方は、西上 (nishigami@iog.u-tokyo.ac.jp) までご連絡ください。